

武中の風

校訓

「自主」「協同」「永続」「健康」
学校便り令和7年5月号
鹿児島市立武中学校

どうして『おはよう』と言うの？

校長 坂中 裕一

朝、私は根性坂下の横断歩道の整理をしているが、毎日のように近所に住む2人の保育園児が話しかけてくれる。この園児らは来年小学校に入学するようで、生徒たちが登校する姿に興味があるようだ。

私が生徒たちに対して「おはよう」と声をかけている姿を見て、1人の園児が「大人なのに、どうして『おはよう』って言うの?」。という無垢な問いを私に投げかけてきた。一瞬、返答に戸惑ったが、私は「昨日ぶりだね。元気だった?という気持ちなんだよ。」と答えた。私は生徒たちよりも年上である。この園児にとっては、どちらからということなく、私と生徒たちが相互にあいさつを交わすことが不思議だったのだろう。なぜ、この園児がこのように聞いてきたか考えてみた。おそらく、登園時、先生に対して、まず園児から「おはようございます。」とあいさつをし、次に先生たちから「おはようございます。」と返してもらっているからではないかと想像した。そのことを確かめるために、「先生が中学生に『おはよう』と言うのが不思議だった?どうして?」と聞いてみた。当然のごとく、この園児は答えに困っていた。私の推測か正しいかどうかは分からないし、小学校に就学前の子供から根拠を聞き出すことは難しい。私はこの年齢の子供たちに上手い根拠の尋ね方を知らないのだ。改めて時間をおき、私があいさつをするねらいを考えてみた。私は生徒たちとの人間関係を深めたいことがあいさつのねらいである。そして、生徒たちからの返しの様子から生徒の状態を推し図ることもできる。

ある先輩教師がこのように述べておられた。「子どもの感覚と感動は常にみずみずしく、大人の想像の枠外で自由な広がりを見せる。その自由な感覚に、大人や親や教師が堅い『概念のふた』をかぶせてはいけない。」生徒たちに限らず、大人の世界においても人が発する言葉や行動には何らかの根拠を伴っている。表面化する言葉や行動を評価する前に、これらに至る根拠を聞き出すことが大切であり、価値があると思っている。学校においては生徒の話真剣に聞く必要がある。ご家庭においてもお子様の話を十分に聞いてほしいと願っている。

この2人の園児は、たぶん明日の朝も私に会いに来る。その時、園児から投げかけられた問いに対して、どのようにその根拠を尋ねるか思案中である。



5月12日から2泊3日の日程で2年生は、修学旅行を実施しました。

1日目は長崎での平和学習、2日目はキッザニア福岡での職業体験、3日目は熊本グリーンランドでの体験学習を行いました。すばらしい経験ができた修学旅行となりました。

5月13日から3日間3年生は、職場体験学習を行いました。62もの職場が武中学校の体験学習を受け入れてくださり、3日間生徒にとって有意義な体験が出来ました。



5月12日から1泊2日で1年生は宿泊学習を実施しました。

ドッジボールや野外活動をとおして学級の絆を深めることができました。



6月行事

- ・教育相談 2日～6日
- ・市総体 10日～13日
(給食はありません)
- ・PTA 執行委員会 17日
- ・期末テスト 18日～20日
- ・第1回 PTA 常任委員会

